

令和2年度 農林水産祭参加 全国肉用牛枝肉共励会

農林水産大臣賞に島根県・榑松永牧場 様

枝肉単価 12,201 円で 榑丸富商店 が落札

令和2度全国肉用牛枝肉共励会が、10月27日から10月30日までの4日間にわたり、東京食肉市場に出荷実績を持つ29都道府県より選抜された第一部 乳用去勢牛及び交雑去勢牛74頭、第二部 和牛去勢牛265頭、第三部 和牛牝牛161頭の合計500頭で開催されました。名誉賞に輝いた和牛去勢牛の321号は、島根県から出品された榑松永牧場様の出品牛で、父が「百合白清2」、母の父が「安福久」、月齢31ヶ月、生体重780kg、枝肉重量539kg、歩留69.1%、格付A5（BMS No,12）、ロース芯の面積が100cm²、バラの厚み9.2cm、皮下脂肪の厚さ1.4cm、歩留基準値80.5で全体に肉付き、均称の素晴らしい体型で、モモのサシ抜けが良好でロース芯が充実し、肉色・光沢に優れた無駄がなく正肉歩留まりも良い、名誉賞に相応しい枝肉でありました。枝肉単価は12,201円で 榑丸富商店により落札されました。名誉賞に輝いた榑松永牧場様は農林水産大臣賞、東京都知事賞をはじめ、数々の名誉ある褒賞を受賞されました。また各部の最優秀賞は、第一部 北海道・太田充英様の4号牛を枝肉単価2,912円で榑ミートナイトウが、第二部 宮城県・佐藤昭彦様の157号牛を枝肉単価10,006円で榑丸富商店が、第三部 滋賀県・榑まる亀こうし牧場様の633号牛を5,646円で山平畜産榑により購買されました。部門別の成績は下記の通りです。

部門	頭数	生体重量(kg)			枝肉重量(kg)			枝肉歩留(%)			単価(円)		
		平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低
第1部乳用・交雑去勢	74	952	1171	751	607	764	459	63.8	68.2	58.2	1,513	2,912	1,253
第2部和牛去勢	265	858	1028	667	568	707	443	67.3	73.0	61.3	2,687	12,201	1,900
第3部和牛牝	161	715	893	566	478	606	378	66.8	72.0	62.7	2,807	5,646	2,038

本共励会の出品規則第6条「出品牛の資格」により、和牛去勢の部で30頭、和牛牝の部で9頭、第13条「事故の責任」により和牛牝の部で1頭の合計40頭が審査対象外となり、審査の対象となったのは460頭でありました。

牛肉営業部

＜10月の相場動向＞

10月の牛枝肉相場は、和牛去勢はA5が前月比212円高の2,665円（前年同月比25円安）、同A4が244円高の2,352円（同28円安）、同A3が242円高の2,157円（同24円安）、同A2が230円高の1,982円（同50円高）となり、交雑種去勢はB4が同64円高の1,586円（同142円安）、B3が同98円高の1,435円（同168円安）、B2が同101円高の1,273円（同202円安）であった。

末端需要が回復したとは言えないものの、政府の補助事業による早期の年末手当から和牛は強含み、交雑牛も和牛にひっぱられ下物ほど堅調な相場展開となった。

和牛去勢月平均	前年同月比	前月比
A5 2,665円	99.1%	108.7%
A4 2,352円	98.8%	111.8%
A3 2,157円	98.9%	112.6%
A2 1,982円	102.6%	113.1%
交雑去勢月平均	前年同月比	前月比
B4 1,586円	91.8%	104.2%
B3 1,435円	89.5%	107.3%
B2 1,273円	86.3%	108.6%
乳牛去勢月平均	前年同月比	前月比
B3 該当なし		
B2 816円	96.0%	107.9%

＜11月の牛枝肉相場見通し＞

気温の低下に伴い売り場では棚替えが進んでいるものの、末端需要は引き続き鈍い状況にある。一方で海外輸出が回復傾向にあるうえ、政府によるGo Toキャンペーンや保管事業などによる例年より早い年末手当により、旺盛な買いも予測される。

和牛は出荷頭数も多くなり共励会なども増える時期であるため、3・4等級は堅調となるも5等級は仕上がりの良し悪しにより等級内格差が顕著になるとと思われる。

交雑牛においても和牛の高値からシフトする動きも見られ堅調な相場が見込まれる。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,600～2,700	B4	1,650～1,750
A4	2,450～2,550	B3	1,450～1,550
A3	2,250～2,350	B2	1,300～1,400
A2	2,050～2,150		
乳牛去勢			
B3	1,000～1,100		
B2	850～ 950		

豚肉営業部

9月の全国と畜頭数は、前年同月比4.7%増の134万7,497頭となった。また、9月の豚肉通関数量は6万5,468t（前年同月比16.3%減）と前年同月を大きく下回り、前月比でも4.4%の減少となった。内訳はチルドが3万2,591t（11%増）、フローズンが3万2,877t（32.7%減）。

＜10月の豚取引の推移＞

上旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1日	65,800	571	533	636
2日	63,600	586	529	918
5日	65,400	563	516	656
6日	68,300	557	532	936
7日	63,200	534	485	670
8日	69,000	522	505	765
9日	61,100	529	505	963
平均	65,200/日			792/日

気温が下がり始め、出荷頭数は徐々に増加基調となったことから、枝肉相場は落ち着いた展開となった。しかし、引き続き内食需要により小売り中心に引き合いは強く、鍋物に向けてバラや肩ロースの動きがみられた。

中旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
12日	63,600	518	494	742
13日	70,000	537	507	1,066
14日	68,300	534	485	721
15日	68,400	508	470	807
16日	66,200	517	480	991
19日	65,200	500	481	693
20日	69,500	547	483	920
平均	67,314/日			849/日

全国と畜頭数は13日に7万頭台になり、緩やかにではあるが増加傾向となった。相場は中物価格が400円台となる日も多くなったが、上物価格は500円台を維持する底堅い展開となった。

下旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
21日	66,900	541	497	642
22日	70,100	536	493	638
23日	63,800	539	488	945
26日	66,600	508	478	610
27日	71,000	544	495	1,069
28日	68,800	548	502	764
29日	70,100	541	497	856
30日	68,700	539	508	1,071
平均	68,250/日			824/日

10月の東京の月間平均相場は上物税込み536円と前年から30円以上、前々年からは70円以上もの大幅な高値相場となった。

＜11月の豚枝肉相場見通し＞

農林水産省による11月の肉豚出荷予測では144万6,000頭（前年比102%）と予測している。当市場の11月集荷予定頭数は1万7,500頭、1日あたりでは約921頭を見込んでいる。

農畜産業振興機構によると11月分の豚肉輸入見込数量は、総量で6万8,400t（同82.7%）、内訳は冷蔵輸入量が3万2,800t（同90.1%）、冷凍輸入量は3万5,600t（同76.9%）と予測。

冷蔵品輸入量は、新型コロナウイルス感染症の影響で北米工場の作業効率が低下し供給量が限定される中、現地需要の増加等から、前年同月をかなりの程度下回ると予測する。また3ヵ月平均では前年同期をやや下回ると予測する。

冷凍輸入量は国内の在庫が高い水準にあることに加え、ドイツで発生したアフリカ豚熱の影響により欧州の現地相場が高いこと、また前年の輸入量が中国でのアフリカ豚熱の影響による先高を見越して多かったことなどから、前年同月を大幅に下回ると予測する。同じく、3ヵ月平均でも前年同期を大幅に下回ると予測する。

今年の11月は秋らしい天候、気温となることが予想されている。今後は量販店などでも秋の収穫祭といった販促が強化される時期になり、更なる鍋物需要への動きが見込まれる。出荷頭数が本格的に増え始め、相場も徐々に落ち着くものとみられるが、引き続き堅調な内食需要に支えられることにより、例年とは異なった相場展開も予想される。

以上のことから当市場の上物平均価格は500円前後、中物平均価格470円前後の展開と予測する。

